

【ボイラー】 給湯温度の調整



取組の概要

- 給湯用に温水ボイラーなどを使用している施設で実施可能な取組です。
- 温水ボイラーは、入浴施設や老人福祉施設等で浴場のお湯張り・シャワーなどに温水を供給するための設備です。末端給湯温度は通常 40℃程度ですが、60～90℃の温水を作り、水と混合して供給するのが一般的です(レジオネラ菌対策のため)。温水の温度が高いほど冷めやすくなり、エネルギーロスが生じるため、必要な給湯温度が確保できる最低限の温度に設定するのが省エネのポイントです。

取組のポイント

- ボイラーの設定パネルで、現在の設定温度を確認しましょう。機器から給湯場所までの距離や温水の使用状況にもよりますが、75℃以上に設定されている場合は、設定温度を下げられる可能性があります。
- 一年を通して同じ設定温度で運用している場合、外気温が低い冬季に合わせた設定になっていると考えられ、夏季や中間期には設定温度を下げられる可能性が高いです。時期によって設定温度を調整しましょう。



ボイラー設定パネル

給湯温度調整の方法

- ボイラーの設定パネルで設定温度の変更が可能です。変更後は、末端で必要な給湯温度が確保できるか確認し、調整しながら最適な設定値を見つけましょう。

実施効果

- 設定温度を現状よりも下げると、エネルギー消費効率が向上します。5℃下げると 5%程度、10℃下げると 20%程度の燃料削減が見込まれます。